



2020年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月9日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社ヤマザワ
コード番号 9993 URL <https://yamazawa.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 古山 利昭
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼総務部長 (氏名) 佐藤 慎三 TEL 023-631-2211
四半期報告書提出予定日 2019年10月11日 配当支払開始予定日 2019年11月1日
四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年2月期第2四半期の連結業績（2019年3月1日～2019年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第2四半期	54,923	△1.7	244	20.7	255	13.7	72	△28.4
2019年2月期第2四半期	55,882	△3.4	202	△63.4	224	△61.4	101	△71.5

(注) 包括利益 2020年2月期第2四半期 81百万円 (△22.8%) 2019年2月期第2四半期 105百万円 (△71.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第2四半期	6.65	6.64
2019年2月期第2四半期	9.29	9.27

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第2四半期	51,819	28,596	55.2
2019年2月期	49,397	28,658	58.0

(参考) 自己資本 2020年2月期第2四半期 28,580百万円 2019年2月期 28,633百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期	—	16.50	—	13.50	30.00
2020年2月期	—	13.50	—	—	—
2020年2月期（予想）	—	—	—	13.50	27.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2020年2月期の連結業績予想（2019年3月1日～2020年2月29日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	110,000	△0.6	650	194.9	700	147.1	250	—	22.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年2月期2Q	10,960,825株	2019年2月期	10,960,825株
② 期末自己株式数	2020年2月期2Q	60,858株	2019年2月期	70,448株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年2月期2Q	10,895,013株	2019年2月期2Q	10,890,104株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な雇用・企業収益を背景に緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、通商問題の動向や消費税の引き上げによる景気悪化への懸念等、不透明な状況が続いております。

小売業界におきましては、改元により一時的な喚起はあったものの消費者の節約志向は根強く、食料品・日用品の値上げ等による実質消費支出の低下や、業種業態を超えた競争の激化、地方における人口減少に伴う市場規模の縮小等、業界を取り巻く環境はますます厳しい状況となっております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、「毎日の生活に必要な商品を新鮮で美味しく、安く提供する事により、食生活を豊かにし地域社会に貢献する」という経営理念のもと、「地域のお客様に繰り返しご来店していただける店づくり」に向け、『経営改革元年』『新生ヤマザワへの挑戦』を本年度のスローガンに掲げ、全社一丸となって各施策の実行及び検証を行ってまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は549億23百万円（前年同期比1.7%減）、営業利益は2億44百万円（同20.7%増）、経常利益は2億55百万円（同13.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は72百万円（同28.4%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

スーパーマーケット事業におきましては、販売企画として、引き続き「生活応援セール」や「水曜均一祭」を実施いたしました。両企画では食料品を中心に買い得商品を多数揃え、販売を強化してまいりました。また、当社が加盟するニチリウグループ（日本流通産業株式会社）のプライベートブランド商品である「くらしモア」や、連結子会社の「株式会社サンコー食品」による当社グループオリジナルの惣菜及び日配商品の拡販を積極的に行ってまいりました。

営業面におきましては、集客強化及び客単価向上のため、EDLP商品拡充による価格競争力の強化と、チラシと連動した販促イベントの多様化に取り組みました。価格競争力の強化といたしましては、2019年3月より加工食品や日用品を中心に商品を厳選し、「300品値下げ」としてお値打ちな価格で販売いたしました。販促イベントの多様化といたしましては、日曜日のポイント還元セールに加え、平日強化策として、「月曜日お肉の日」・「火曜日日配食品の日」のような曜日別・分類別の日替わり販促を導入いたしました。また、日曜対策として、開店時間より店頭・店内で買い得商品を販売する「日曜朝市」による午前中の集客強化及びにぎわい創出に努めました。さらに、当社グループ独自の電子マネー機能付きポイントカード「にこかカード」の利用拡大のため、チャージ機利用による特典付与等の販促活動を継続的に実施いたしました。

店舗運営面では、買い上げ商品の精算等をお客様自身で行うセルフ式レジの導入を進め、お客様の待ち時間短縮と店舗の作業効率向上を図りました。

なお、株式会社ヤマザワにおきまして2019年8月に「バイパス店」（山形県山形市）を閉店いたしております。

以上によりまして、株式会社ヤマザワの店舗が山形県内42店舗、宮城県内22店舗、よねや商事株式会社の店舗が秋田県内9店舗となり、スーパーマーケット事業の合計店舗数は73店舗となりました。

この結果、スーパーマーケット事業の売上高は482億24百万円（同1.8%減）となりました。

ドラッグストア事業におきましては、主力の医薬品と化粧品のカウンセリング推進をはじめとした販促活動の強化に取り組むとともに、トータルコストリダクションを掲げ、全社一丸となって経費削減活動に取り組ましました。

設備投資といたしましては、2019年4月に「ドラッグ左沢（あてらざわ）店」（山形県西村山郡大江町）を新規開店いたしました。同店は、今後の新規出店のモデルケースとなるドラッグストア単独店舗であります。「利便性があり、地域から信頼されるお店づくり」をコンセプトとして、食料品及び介護用品・雑貨商品の拡充等、地域特性に合った品揃えに努め、お客様にご満足いただけるお店づくりに取り組みました。

なお、2019年5月に「ヤマザワ薬品住吉台店」（宮城県仙台市）を、2019年8月に「ヤマザワ薬品バイパス店」（山形県山形市）を閉店いたしております。

この結果、ドラッグストア事業の売上高は66億93百万円（同1.1%減）となりました。

その他事業におきましては、惣菜及び日配商品を開発製造して当社グループへ納品しており、スーパーマーケット事業との連携を密にし、安全・安心で美味しいオリジナル商品の開発を行ってまいりました。

この結果、その他事業の売上高は6百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ24億22百万円増加し、518億19百万円となりました。これは主に、現金及び預金が増加したためです。

負債は、前連結会計年度末に比べ24億85百万円増加し、232億23百万円となりました。これは主に、買掛金が増加したためです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ62百万円減少し、285億96百万円となりました。なお、自己資本比率は55.2%となっております。

キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ17億97百万円増加し、77億26百万円(前連結会計年度末比30.3%増)となりました。

営業活動の結果得られた資金は39億93百万円となりました。これは主に、非資金損益項目である減価償却費が12億17百万円あったことや、仕入債務の増加額が26億21百万円あったことによるものです。

投資活動の結果使用した資金は11億59百万円となりました。これは主に、新店舗・設備改修に伴い有形固定資産の取得による支出が10億89百万円あったことによるものです。

財務活動の結果使用した資金は10億36百万円となりました。これは主に、金融機関に対する短期借入金の純減少額が6億70百万円あったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月期の連結業績予想につきましては、2019年4月11日の「2019年2月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました内容から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,400	8,203
受取手形及び売掛金	690	719
商品及び製品	4,262	4,379
仕掛品	1	1
原材料及び貯蔵品	96	102
その他	1,316	1,344
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	12,766	14,748
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,280	14,853
土地	13,231	13,853
その他(純額)	2,549	2,939
有形固定資産合計	31,061	31,646
無形固定資産	1,358	1,296
投資その他の資産		
その他	4,214	4,132
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	4,210	4,127
固定資産合計	36,630	37,070
資産合計	49,397	51,819
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,689	9,311
短期借入金	3,920	3,250
1年内返済予定の長期借入金	191	179
未払法人税等	341	131
賞与引当金	318	318
役員賞与引当金	3	7
ポイント引当金	644	646
商品券回収損失引当金	77	60
その他	4,733	5,215
流動負債合計	16,918	19,121
固定負債		
長期借入金	526	480
退職給付に係る負債	683	676
資産除去債務	1,142	1,157
その他	1,466	1,787
固定負債合計	3,819	4,101
負債合計	20,738	23,223

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,388	2,388
資本剰余金	2,206	2,208
利益剰余金	24,104	24,030
自己株式	△80	△69
株主資本合計	28,619	28,557
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	12
退職給付に係る調整累計額	10	10
その他の包括利益累計額合計	13	22
新株予約権	25	15
純資産合計	28,658	28,596
負債純資産合計	49,397	51,819

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
売上高	55,882	54,923
売上原価	40,437	39,942
売上総利益	15,445	14,981
販売費及び一般管理費		
給料	5,527	5,413
賞与引当金繰入額	311	314
役員賞与引当金繰入額	8	7
退職給付費用	63	51
ポイント引当金繰入額	644	646
減価償却費	1,267	1,179
貸倒引当金繰入額	0	0
その他	7,420	7,123
販売費及び一般管理費合計	15,243	14,737
営業利益	202	244
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	7	7
データ提供料	5	7
その他	24	17
営業外収益合計	39	33
営業外費用		
支払利息	8	6
賃貸借契約解約損	5	9
その他	2	7
営業外費用合計	17	22
経常利益	224	255
特別利益		
固定資産売却益	1	—
特別利益合計	1	—
特別損失		
固定資産除却損	25	5
投資有価証券評価損	—	77
特別損失合計	25	83
税金等調整前四半期純利益	200	172
法人税、住民税及び事業税	157	71
法人税等調整額	△58	28
法人税等合計	98	100
四半期純利益	101	72
親会社株主に帰属する四半期純利益	101	72

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
四半期純利益	101	72
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	9
退職給付に係る調整額	△0	△0
その他の包括利益合計	4	8
四半期包括利益	105	81
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	105	81
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	200	172
減価償却費	1,309	1,217
受取利息及び受取配当金	△9	△9
支払利息	8	6
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△69	△122
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,293	2,621
その他	205	388
小計	2,938	4,274
利息及び配当金の受取額	8	7
利息の支払額	△9	△6
法人税等の支払額	△33	△283
法人税等の還付額	298	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,202	3,993
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,317	△1,089
敷金及び保証金の差入による支出	△4	△42
敷金及び保証金の回収による収入	27	29
その他	△49	△57
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,344	△1,159
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△570	△670
配当金の支払額	△179	△147
その他	△122	△219
財務活動によるキャッシュ・フロー	△871	△1,036
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	986	1,797
現金及び現金同等物の期首残高	4,593	5,929
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,579	7,726

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当第1四半期連結会計期間より適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。